

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。

監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース: 山国秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダーホトリリー/博報堂DYミュージック&ピクチャーズ/ギャガ/JR西日本コミュニティ・ソリューションズ/アイ・ピー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/ジネツキョウ)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: ギャガ GAGA★ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★
GENDA GROUP

＊コード・きこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードの心の軌跡が、点描のように紡がれていく――。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、“きこえる世界”と“きこえない世界”を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

っては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持て余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが・・・。



「ぼくが生きてる、ふたつの世界」茅野市・諏訪市上映会

2026年 **2月15日(日)** ①10:30 ②13:30 (各回30分前開場)

茅野市民館 マルチホール (茅野市塚原1丁目1-1)

1回目が満席の場合は、2回目の上映をご案内いたします

前売券 一般・シニア・大学生 **1,200円**

当日券 一般・シニア 1,500円
大学生 1,300円
小中高生 800円 (小学生未満無料)

【前売券取扱所】

茅野市：茅野市民館、今井書店、茅野市観光案内所、茅野市社会福祉協議会
諏訪市：平安堂諏訪店、誠林堂、諏訪市社会福祉協議会
※おつりのないよう代金をご用意ください。

【主催】「ぼくが生きてる、ふたつの世界」茅野市・諏訪市上映実行委員会

【構成団体】全諏訪聴覚障害者協会、茅野市手話言語条例策定推進協議会(茅野市聴覚障害者協会、茅野市手話サークル、茅野市議会 創生ちの)、諏訪市手話サークル、諏訪市議会、すわ湖市民劇場、茅野市社会福祉協議会、諏訪市社会福祉協議会、茅野市、諏訪市

【共催】信濃毎日新聞社 【後援】茅野市教育委員会、諏訪市教育委員会

【お問合せ】茅野市社会福祉課 TEL. 0266-72-2101 (内線315, 316) FAX.0266-73-0391

メール:shakaifukushi@city.chino.lg.jp

諏訪市社会福祉課 TEL. 0266-52-4141 (内線232, 233, 235) FAX.0266-53-6073

メール:shafuku@city.suwa.lg.jp